

2026年1月20日
全国研修会

地域で子ども達を支える



あらかわ子ども応援ネットワーク
一般社団法人子ども村ホットステーション
代表 大村みさ子

荒川区ってこんな街

■人口 225,027人（内外国人25,647人）128,311世帯 令和7年12月1日現在

■面積10.16km² ※人口密度全国3位

■町会・自治会 119 商店街37

■民生委員児童委員 8地区 200名

主任児童委員15名

■公立小学校24校 中学校10校

■地域包括支援センター8か所 高齢化率22.5%23区で6位

■子育て世代が増加

■交通は便利



高齢者にも障がいのある人にも
子ども連れの親にとっても
乗りやすいバリアフリーの都電が
走る町
区立あらかわ遊園



荒川区の居場所活動への支援

- 2009年荒川区自治総合研究所設立
- 2011年「地域は子どもの貧困・社会排除にどう向かい合うのか」
複数の要素が重なり、子どもは貧困状況となる
- 2012年荒川区学習支援事業「学びサポートあらかわ」無料学習会を実施・SSWの配置
貧困対策の一環として
- 2015年 荒川区子育て支援課「子どもの居場所事業補助金」支援
生活困窮世帯、ひとり親家庭その他の支援を必要とする家庭の
18歳以下の子どもに対し、居場所事業（これと併せて学習・体験事業）
- 2025年 荒川区より新たな子どもの居場所創設事業が始まり
公募により2団体が採択される（下校後の子どもたちの支援）
 - 1 居場所の提供事業
 - 2 親に対する養育支援事業
 - 3 子供に対する学習支援事業
 - 4 食事提供等の生活支援事業
 - 5 ブランチ運営事業
 - 6 長期休暇時等食事提供事業
 - 7 オンラインを活用した居場所参加促進事業

「ソーシャルファミリー」・・・「安心・安全で居られる場所」

- 「子どもの支援」が軸である「子ども村ホッとステーション」は
「**子どもが安心、安全で居られる場所**」を目指している。
- 長い時期、寄り添いの関係を継続することを**家族のような関係**とし、対象は子どもだけでなく、子どもの家族も含まれてくる。
この関係を「**ソーシャルファミリー**」と読んでいます。

ソーシャルファミリー

子ども支援



家族支援
多世代

2014年 荒川社協より**歳末助け合い地域福祉募金**を3年間支援。
 2015年～2024年**荒川区子どもの居場所事業補助金**支援
 2018年 **日本リミネストリート株式会社**より助成金支援
 2018年 **東京キワニスクラブ**より「**社会公益賞**」受賞
 2020年・2021年 独立行政法人福祉医療機構**WAM助成金**を受ける
 2021年 **荒川区子育て交流サロン補助金**を受ける
 2021年 10月**一般社団法人**取得
 2022年～2024年 **日本財団助成金**を受ける
 2022年 **全国食支援協**より委託事業を受ける。
 2025年4月より**荒川区子どもの居場所創設事業**を受ける

2019年活動場所を転居「子育て交流サロンイローナ親子の縁側」の2階
 2020年活動場所を転居・町屋2丁目都電駅前、フレスコ町屋2階

2020年7月より「**ユニバーサルステーション**」「**アウトリーチ**」を開始する
 2020年6月より「**相談カフェ**」開始する
 2021年4月より「**ふぁみ～る子育て交流サロン**」を開始する
 2022年4月より「**放課後クラブ**」を開始する

毎月二回**荒川区更生保護女性会**、毎月一回**尾久母の会**が調理ボランティアに参加
 20代～70までの多世代の地域の人がボランティアとして参加。
 荒川区で最初に食事提供の「子どもの居場所」として
 設立し、「子ども食堂ネットワーク」、「広がれ、こども食堂の輪！」推進会議、「子ども食堂実践者の会」に参加しながら、荒川区での子ども食堂設立を応援する。

一般社団法人子ども村 ホットステーション

2014年5月設立（2021年 10月一般社団法人取得）

- 1) **子ども村：中高生ホットステーション**（2025年より荒川区子どもの居場所創設事業助成金）
ロールモデルの若者達と一緒に活動の**子どもの居場所**（2014年設立）
毎週木曜日・17時～20時 【調理支援：荒川区更生保護女性会・尾久母の会】
- 2) **子ども村：ユニバーサルステーション**（2021～2024年日本財団助成金・2025年より自主事業）
多世代の居場所づくり（2020年設立）
毎週月曜日、水曜日、木曜日・10時～14時
- 3) **子ども村：放課後クラブ**（2021～2024年日本財団助成金・2025年より荒川区子どもの居場所創設事業助成金）
下校後の子どもの居場所（生活支援、学習支援が必要な子ども対象）（2022年設立）
毎週月曜日、水曜日・17時～19時
- 4) **子ども村：アウトリーチ**（2025年より荒川区子どもの居場所創設事業助成金）
不登校の子どもを自宅から居場所へ繋ぐ（2020年設立）
週1回の子どもの自宅への訪問または居場所へ通うサポート×3ヶ月
研修を受けたスタッフが対応
- 5) **子ども村：ふぁみ～る子育て交流サロン**（荒川区子育て支援課・子育て交流サロン事業助成金）
0歳から3歳までの**赤ちゃんと保護者の居場所**（2021年設立）
毎週火曜日、金曜日、土曜日・10時～15時
- 6) **相談カフェ**
一人親家庭の支援
- 7) **子ども村：生活支援**（2025年より荒川区子どもの居場所創設事業助成金）
生活、家族の支援

民間の活動であるからこそ**生活者としての目線**で支援

子どもの居場所・・・地域の普通の人達・学生が運営
「**子どもと同じ目線**」を持って支援をする。

- ①共感し対象者の困りごとに寄添う、対象者と**対等な関係作り**
- ②より**穏やかな生きやすい環境**の《**子どもの居場所**》の提供
- ③子どもが安心していことができる**家庭の支援・家族の支援**
- ④いつでもSOSの言える**関係作り**・・・地域だからこそできる**長期に亘る関係作り**



⑤長期に亘る関係・・・長い目で見ると

今すぐどうにかならなくても、**少しずつ積み重ねる**

→ 子ども: 少しずつ「受け入れる」ことができる

⑥お互いに「ジャッジ」するのではなく**「認めていく」・「気がつく」**が身についていく。

ソーシャルファミリー

結果的に「疑似家族」の様な感覚になってくる。

「子どもの居場所」の活動を毎日行うことは難しい。

でもそんな活動がたくさん集まれば、
子どもたちの毎日を応援できる。

全ての活動が開催日を変えて連携して活動

あらかわ子ども応援ネットワーク



子どもが活動の軸

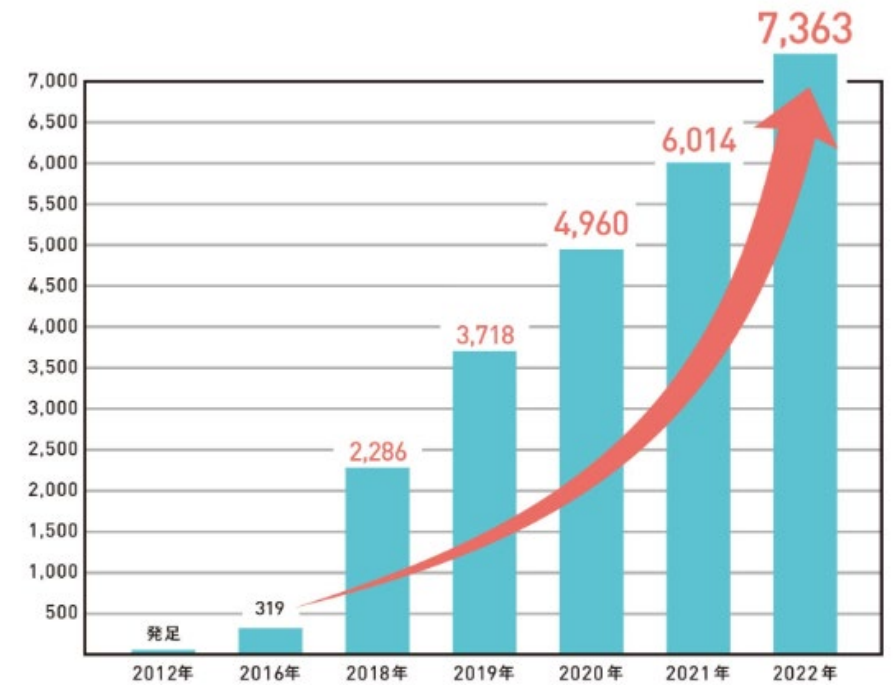
2015年 荒川区子育て支援課「**子どもの居場所事業補助金**」支援開始
 2016年 急激に子ども食堂が全国的に増え、荒川区でも活動場所が増加
 活動の目的が「**子ども支援**」からずれていく団体も

↓
 活動の目的を確認！
 ↓

子どものために、子どもが使いやすい子どもの居場所、子ども食堂
子どもを真ん中に、支援者が手を繋ごう！
 ↓

2017年 「**あらかわ子ども応援ネットワーク**」設立
 ★ネットワークに参加の子どもの居場所、子ども食堂の**活動日を1週間に分散**「地域の活動全体で子ども達をサポート」
 ★関係の荒川区役所の各課も参加
 子育て支援課・子ども家庭総合センター（児童相談所）
 教育委員会・生涯学習課・健康推進課・清掃リサイクル推進課

2019年 8月 **地域情報交換会** 開始
 2021年 4月 **一人親家庭への食材配付**を継続的に開始：パントリー（2020年のコロナ禍で食材配付を不定期に始める）
 コロナ禍も三ヶ月に1回の定例会を実施
 2024年 11月「**不登校支援部会・広報部会**」開始
 2025年 2月 地域にネットワークに参加の活動を知ってもらうために**活動説明会**を実施



2018年以降は認定NPO法人全国子ども食堂支援センター・むすびえ、および地域ネットワーク団体調べ、2016年は朝日新聞調べ

【支援活動団体】34か所

- | | |
|-------------------|------|
| 1. 子どもの居場所 | 8団体 |
| 2. 子ども食堂 | 12団体 |
| 3. 学習支援 | 3団体 |
| 4. 多目的な子どもの居場所 | 2団体 |
| 5. フリースペース | 1団体 |
| 6. 親支援団体 | 3団体 |
| 7. 外国にルーツを持つ子ども支援 | 1団体 |
| 8. フリースクール | 1団体 |
| 9. フードバンク | 1団体 |
| 10. 発達相談 | 1団体 |
| 11. 保健の情報の支援団体 | 1団体 |

上記以外にも、保護司会

実験教室、アート活動、ボクシングの機会提供の団体なども参加

(東京都立大学、東京学芸大学、慶應義塾大学、法政大学、立教大学、早稲田大学の学生達もサークルや個人で参加)

様々な参加団体(48団体)

【荒川区役所】6か所

1. 荒川区子育て支援課
2. 子ども家庭総合センター
3. 荒川区教育委員会
4. 荒川区生涯学習課
5. 荒川区健康推進課
6. 荒川区清掃リサイクル推進課

【その他】8か所

1. 荒川区社会福祉協議会
2. 東京都立大学
3. 荒川社会福祉士会
4. 民生委員 児童委員・主任児童委員
5. 荒川区更生保護女性会
6. 一般社団法人あじいる
7. 荒川区立中学校PTA連合会
8. 荒川区仏教会

①支援を必要とする子どもを 子どもの居場所・子ども食堂へつなぐ仕組みづくり

子ども家庭総合センター（児童相談所）

- ★ニーズをもった子どもをつなぐ
- ★子どもについての相談

教育委員会

スクールソーシャルワーカー

- ★居場所を必要とする子どもたちを活動先に紹介・送迎

学校 保健室 養護教諭

- ★居場所を必要とする子どもたちを活動先に紹介

荒川区子ども家庭部

- ★ひとり親世帯等ニーズをもつ子どもをつなぐ
- ★ひとり親世帯メルマガでパントリーを周知

月に1回の
食材支援のパントリー
開催

学校・家庭
関係機関との
連絡・相談調整

ニーズ・地域
等にあわせて
つなぐ

アウトリーチ

不登校・ひきこも
りの状態のある子

子ども村ホッとステーション
子どもの居場所インまちや
なにかし堂

クローズ型・支援を必要とする子どもたちに
食事の支援・学習支援・暮らしの支援

子どもの居場所

南千住地区	2か所
荒川地区	1か所
町屋地区	3か所
尾久地区	1か所

子ども食堂

南千住地区	
荒川地区	2か所
町屋地区	4か所
尾久地区	5か所
日暮里地区	2か所

オープン型で誰でも参加できる食堂
※コロナ禍 お弁当配布・パント
リーを実施
クローズ型もあり 2か所

1) 民間で支援する団体と民間支援を応援する団体 連携体制がある

荒川区では「**あらかわ子ども応援ネットワーク**」があり、
行政や子ども支援の団体と連携している



困難な子どもを紹介される

日常の支援を子どもの居場所・子ども食堂に繋ぐ

発見

②支援を必要とする子どもがいる居場所・子ども食堂から 相談・支援・制度に繋げる仕組みづくり

子ども家庭総合センター（児童相談所）

教育委員会スクールソーシャルワーカー

学校（担任、養護教諭）

荒川区子育て支援課

荒川区健康推進課（保健所）

荒川区障害者福祉課

荒川区生涯学習課

荒川区社会福祉協議会

企業組合あうん

認定NPO法人多文化共生センター

東京都立大学（先生・学生）

NPO法人女性ネット saya-saya

あらかわボランティアネットワーク

支援内容により専門機関に相談

子どもの居場所

南千住地区	2か所
荒川地区	1か所
町屋地区	3か所
尾久地区	1か所

子ども食堂

南千住地区	
荒川地区	2か所
町屋地区	4か所
尾久地区	5か所
日暮里地区	2か所

アウトリーチで繋がった
自宅に引きこもった子ども達

1) 民間で支援する団体と民間支援を応援する団体 連携体制がある

荒川区では「**あらかわ子ども応援ネットワーク**」があり、
行政や子ども支援の団体と連携している



関係各所と一人の児童について相談
専門的な・支援・制度に繋ぐ

支援

- 区スクールソーシャルワーカー 《不登校児のケース》
- 学校・保健室 《不登校児のケース》
- 区子ども家庭相談センター(児相) 《不登校・ネグレクト・発達障がいのケース》
- 区ひとり親家庭担当 《ひとり親家庭のケース》
- 区生活保護担当(生活福祉課) 《家族機能の弱い家庭・保護世帯で孤立》
- 地域包括支援センター 《高齢者:一人暮らしで地域で孤立・認知症》
- 区社協・地域コーディネーター 《ひきこもり当事者・家族》
- 区社協・障害者相談・就労支援《障害のある社会人・子ども》
- 保健所 《困窮家庭のケース》

「助けて」を気づく仲間づくりを……

多世代、多様な生き方をしている人たちと一緒にごはんを食べたり、おしゃべりをしたり勉強をしたり 遊んだりと過ごしていくなかで「違ってあたりまえ」と思えるようになること

顔をみないと心配になり連絡をする…具合が悪いと聞くと、食材や弁当をもって尋ねる!

気になる人をほっとかなくなることを大事にしたい ～ 「助けて」を気づく仲間づくりをしたいと思う日々です!

ネットワークが課題解決の力になる!

ふれあい館の体育館を 不登校の子ども達に開放

- ふれあい館の体育館を使用していない時間帯を解放
- 居場所活動に参加の不登校の子ども達が参加
- 毎月3回・各1時間



居場所活動に参加の子ども達が集まり、
子ども達が混ざりあって一緒にチームになって
ドッジボールやバスケットを。

居場所活動への参加を 学校登校扱いに

令和6年3月に不登校ガイドラインを
荒川区教育委員会が作成

24ページ・・・・・・・・・・

★ 校長は、フリースクール・フリースペース等への登校について学級担任等の教職員や保護者などを含めた連絡会等を開催したりして、その状況を十分に把握していることが必要です。そうした状況を踏まえ、校長が、本人の社会的な自立を支援する方針を鑑み、設置者である教育委員会と十分な連携をとって判断することとします。

※フリースクール等の参加を「出席扱い」とするためには、児童・生徒の利用先の団体が出席の記録（形式自由）を作成し、保護者を通して定期的に学校に提出する必要があります。

荒川区社会福祉協議会が事務局

- 荒川区役所の関係の課への連絡
- 支援していただいた食材を配付（グループメールで連絡）
- ひとり親家庭へのパントリーのとりまとめ
- ボランティア募集のとりまとめ
- ホームページの管理

ひとり親世帯へのパントリー活動



ボランティア集合打合せ



子ども村では、相談カフェと衣類・文房具・生活用品を



- **ひとり親家庭や経済的に厳しい状況にある子どものいる家庭等を対象**にし、地域住民や企業、社会福祉団体等から寄贈された食材や生活用品を必要な家庭に配布
- 子どもや親とつながる機会をつくり、困った時にSOSを発信し、様々な活動団体や関係機関が受けとめ地域から孤立した家族が生まれないように**地域で支える**

1. 毎月 第3日曜日 フレスコ町屋 ガレージ 町屋2-21-2
2. 対象 ひとり親世帯・都立大学学生
あらかわ子ども応援ネットワークの参加者（2024年度総合計 月平均 157世帯）
3. 対象とする食品・生活用品
・お米・食品・生活用品・生理用品
4. **衣類・生活用品の配布と相談カフェ 子ども村ホッとステーション**
雑談をしながら困りごとなどの相談を受ける
荒川区子育て支援課ひとり親家庭女性福祉係 母子生活支援施設 荒川区社会福祉協議会



2022年度 ひとり親世帯 配布延べ数 1152世帯 食堂・居場所経由635世帯 都立大学学生183人

2023年度 ひとり親世帯 配布延べ数 1310世帯 食堂・居場所経由503世帯 都立大学学生142人

2024年度 ひとり親世帯 配布延べ数 1345世帯 食堂・居場所経由487世帯 都立大学学生47人

民間の様々な活動が、縦・横・斜めの繋がり→ ネットワークの仲間で活動

- ・3ヶ月に1回、参加団体全体で情報交換
- ・生活、学習支援をする居場所活動で居場所ネットをつくる
- ・複数の活動で具体的な子どもの地域別の情報交換会
- ・複数の活動でコラボ企画
- ・複数の活動で同じ家庭を支援（家族支援・子どもへの支援）

- ・不登校についての連携・情報交換
「不登校支援部会」 随時開催

荒川区主催の不登校の子ども保護者へ情報提供

- ・外部への発信、ボランティア募集などの広報活動
「広報部会」活動紹介の会を開催

活動の形は違っていても、
課題では繋がりを持つ

ネットワークだからできること！！！！

- 三ヶ月に1回ネットワーク会議を開催し、行政の関係部門の担当者も参加し、**同じテーブルで話し合い**ができる
- ネットワーク参加の団体で会場を提供してもらい、**一緒に運動**をすることができるようになった。
- 1～2ヶ月ごとに地域の居場所活動で**情報交換会**を開催
- 不登校支援、情報発信、ボランティア募集など**ネットワーク全体で**。
- **大口の支援**もネットワークだからこそ受け、シェアすることができる。
- 個の活動ではなく団体となっていることで、信用度が増す。
- 2024年度より「子どもの居場所」に参加したことで「**学校に登校**」と同じ扱い
- **活動に関わる一人の人が色々な複数の活動に関わっているため、活動が化学反応をして多岐におよんでいく**

支援の団体同士、行政とも

Familyという感覚だからこそ……



「連携」「繋がる」のではなく、「仲間になる」という感覚

「知ってもらおう」ことで、お互いを理解する。

行政にできること、民間だからできること

お互いに「ジャッジ」するのではなく「認める力」・「気がつく力」

軸は「子ども」

行政との連携

居場所に行くことで「出席扱い」の対応が2024年度より始まる
教育センターとのコラボ

不登校の子どもへの保護者への情報提供の会を開催

児童相談所、教育センターと年度初めに

それぞれの活動を紹介、情報交換の場を

荒川区清掃リサイクル課がフードドライブ、スーパーとの繋がりを支援

ネットワークの今後の課題

地域まるごとが子ども達を支援

- ①ネットワークへの活動経費の確保
- ②事務局である社会福祉協議会のボランティアセンターの人材の確保
- ③自分達の活動が忙しく、なかなかネットワークの活動に手が廻らない
- ④それぞれの活動への参加スタッフが少ない(学習スタッフなどの若手ボランティア)
- ⑤次の世代への活動に繋げる準備(若い世代の参加、繋がり)

ネットワークのこれから

それぞれの単独の活動では継続は難しい(費用、人材)

立ち位置の違う異なった活動グループ同士が
足りない部分を補い合い、協力し合う
仲間として**同じ活動の流れを作っていく**

ボランティア募集のための説明会

居場所活動10年誌の作成

不登校の保護者への情報提供